

「いのち」の教育実践事例

☆県立新庄神室産業高等学校の実践

生命の継承の
大切さに
関する教育

- いのちをつなぐ人づくり -

自尊感情を高め、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ

① グループアプローチ

- 【4月5日(金)、6月21日(金)、12月3日(火)】
- ・意見や考えが違ったとしても、居心地がよく、お互いを尊重しあい、いじめや不登校のないクラスにするために、構成的グループエンカウンターや、グループワークトレーニングといったプログラムに取り組んだ。
 - ・さまざまなプログラムに取り組むことで、普段は気づかないクラスメイトの良さに気づいたり、関わり方を身に付けることができ、クラス内で新しい友人ができ、クラスでの会話が増えた。



意外と楽しく、会話がはずんだ！

② 薬物乱用防止講演会【9月17日(火)】

- ・新庄警察署生活安全課少年補導専門員を講師に迎え、薬物の影響による深刻な被害の現状と防止策についての講演会が開催された。
- ・講演後の感想文では、最上地域でも薬物所持による検挙があり、身近にも薬物の危険が迫っていること、また幼い子供と離れて更生・治療しなければならない薬物乱用者の話など、具体的な内容で、薬物の危険性に対する認識が高まったことがうかがえた。

1年間の薬物事件
検挙者が13000人
もいることにビ
ックリ！



薬物被害の危険が
身近なところでま
で迫っていること
に気づいた。

③ 献血セミナー 【10月29日(火)】

- ・山形県赤十字血液センターと最上総合支庁保健福祉環境部から講師を迎え、1年生を対象に、献血可能人口の減少による課題と献血の必要性に関する講演が開催された。
- ・セミナーは、映像と講師による問いかけを交えたもので、具体的で分かりやすいと、生徒に好評であった。
- ・セミナー後のアンケートでは、「献血に対する誤解が解けた(献血は痛くない)」「若年層の献血が減っているので、自分も協力したい」「1日に3000人も献血を必要とすることに驚いた」「誰かが献血することで、誰かが助かっていることがわかった」といった感想が多く、献血への理解を深め、意識を高めることができた。

講師のやさしくわかりやすい説明
で、献血の大切さに納得！

